

令和4年度 徳島県立総合大学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年3月15日(水)
- 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル1階 グランヴィリオホール
(徳島市万代町3丁目)
- 3 出席者
 - (1) 委 員 21名中21名出席(別添「名簿」参照)
 - (2) 大学校幹部 榊副校長(県教育長)
林県立総合大学校本部長, 各学部長ほか
 - (3) 事務局 板東事務局長, 中野副事務局長ほか
- 4 次 第
 - (1) 開 会
 - (2) 議 事
 - ① 県立総合大学校の運営状況について
 - ② その他
 - (3) 閉 会
- 5 配付資料
 - (1) 資料1 総合大学校「まなびーあ徳島」アフターコロナに向けて
 - (2) 参考資料 県立総合大学校の概要及び取組状況
 - (3) その他 徳島県立総合大学校設置要綱
徳島県立総合大学校運営協議会設置規程
- 6 議事概要
 - (1) 開会
 - (2) 会長及び副会長の選任
 - (3) 議事

○ 事務局

続きまして会長及び副会長の選任をお願いいたします。「運営協議会設置規程第3条第2項」の規定により、「会長及び副会長は委員の互選により定める」こととなっておりますが、いかがいたしましょうか。

○ A委員

以前からこの協議会において御尽力してくださっており、県の教育長もされ、そして現在、四国大学の事務局長をされていらっしゃる佐野委員がよいと思います。

○ 事務局

ただいま、A委員から佐野委員を会長に推薦いただきましたが、いかがでしょうか。

○ 各委員

(異議なし)

○ 事務局

御異議がないようですので、佐野委員をお願いしたいと思います。それでは、議長席へ御移動をお願いいたします。

それでは、以降の議事進行につきましては、佐野会長をお願いしたいと思います。佐野会長よろしくをお願いいたします。

○ 会長(佐野委員)

ただいま会長に御選任をいただきました、佐野でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

ポストコロナ、アフターコロナの中で総合大学校が新しい学びを皆さんに提供できるように一生懸命サポートして参りたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、副会長の選任ですけれど、他の委員の方から推薦をいただきたいと思います。もし無いようでしたら、私の方から推薦させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○ 各委員

(異議なし)

○ 会長

ありがとうございます。それでは、徳島大学の田中委員をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○ 各委員

(異議なし)

○ 会長

異議がないようですので、田中委員に副会長をお願いすることといたします。よろしくをお願いいたします。

○ 副会長(田中委員)

田中です。どうぞよろしく願いいたします。

○ 会 長

それでは、どうぞよろしく願いいたします。

では、早速、議事に入らせていただこうと思います。本日の会議は、午後3時を終了予定としております。すべての皆さんにできるだけお話していただきたいと思いますので、どうぞ御協力よろしく願いいたします。

それでは早速ですけど、議事(1)「県立総合大学校の運営状況」について、事務局から説明をお願いいたします。

○ 事務局

議事(1)「県立総合大学校の運営状況」について説明

○ 会 長

ありがとうございました。ここからは、委員の皆さんから議事に対する御意見、御提言など、また、その他、県立総合大学校の運営に対する御意見などをいただければと思います。

それでは、どなたからでも結構でございますので、御発言をお願いしたいと思います。どうぞございませうか。B委員さん、よろしく願いいたします。

○ B委員

資料1について御説明いただき、ありがとうございました。その中でe-とくしま推進財団に少し関わっているところがありましたので、補足説明をさせていただけたらと思います。先程の資料の4ページ、(2)デジタルデバインド解消に向けた取組という項目があったと思います。これは本部の方での講座主催ということなので、回数も8月と9月の4回でありましたが、この講座の反省点のなかに、例えば参加者の声で丁寧な説明で疑問に思っていたことが少しわかったとか、色々な使い方をもっと知りたいとか、1回でなく、何回もやってほしいなどの要望があったわけですが、e-とくしま推進財団では、この講座とは別に、講習会をやっておりまして、これを御紹介させていただきたいと思います。国の総務省とか徳島県の方から支援をいただきながら、60歳以上の方でスマホ体験教室を開催するというを各県内の24の市町村に開催の有無を確認をいたしまして、また社会福祉協議会にも開催してほしいかどうかの打診をしたところ、全部で7つの市町と1団体から希望の申出がありました。e-財団では、1回限りではなく、6回シリーズで、1回1時間半から2時間を6回、月に換算すると週に1回なので、1か月半ぐらいかけてじっくりと定員10名で、スマホを持っていない方も対象としておりまして、財団の方が準備した共通のスマホを使っていただき、実習形式と質問を含めてじっくり落ち着いた環境の中で、体験していただきました。当然、希望者が殺到する市町もありまして、初日1日目で定員が埋まることもあったので、そういう所は、追加で2回開催することもありました。団体というのは、県の聴覚障害者の福祉協議会から申出がありましたので、耳の不自由な方を対象とした講習会も開催しました。その中には、手話通訳者4名の方に御協力をいただき、我々講師とアシスタントを含め、7、8名の者がマンツーマンの形でやらせていただき

ました。最初は講師の方も十分慣れていなかったのですが、そのうち慣れてきてそれぞれ意思疎通ができるようになってきて、終わりの頃には、記念撮影をして終わるという雰囲気でもありました。何分こうした機会が、先程の紹介では、3回、4回でしたが、別途こういった長期にわたるシリーズで、県民の方々にデジタルデバインド解消に向けた取組をしていることの紹介をしていただいて、来年度も事務局から説明がありましたが、どのようなスタイルになるかどうかわかりませんが、ますますこういった機会を広げて行きたいと思っております。ちなみに、参加していただいた人数は、12回開催しまして、110名ほどもの方に参加いただきました。まだまだ、500名や1000名にはなかなか届いておりませんが、これからも何回かに分けて来年度もこういった講習会を開催したいと思っておりますので、御支援をよろしくお願いいたします。以上です。

○ 会長

どうもありがとうございました。e-とくしま推進財団のデジタルデバインド解消についての独自の取組を紹介いただきました。また、委員の皆さんもこういうことをやっていることを他の皆さんにおっしゃっていただけたらと思います。ありがとうございました。ほかの委員の方どうでしょうか。

○ C委員

今教えていただきました、デジタルデバインドの取組に関連しまして、私から御紹介というかコメントをさせていただきます。私は、消費者庁新未来創造戦略本部で、客員研究官として、様々な調査研究をしているんですけども、デジタルの全国調査をやった結果を分析したら、デジタルを日々、通販とかアプリアプリですか、情報をいろいろ習得するって、デジタルを使っている人ほど、やっぱりすごく消費者トラブルに遭うということがはっきりとデータで出てきました。今までこうデジタルデバインドっていったら、デジタルに強いのは若い人、男性とか、所得が多いみたいな方が、デジタルをたくさん使っていて、その方たちがどんどん生活を豊かにしてるみたいに言われたんですけど、今度デジタル強者の人たちこそ被害に遭ってるってということも分かってきて、2、30代の男性が、デジタル中心の生活みたいな感じになって、それでとてもトラブルになってるっていうのを、どうにか考えていかなきゃいけないあつていうのがちょっとわかったというような状況でございます。本当に消費者トラブルっていうのは、今、デジタルの世界が中心になってきていますので、その対策を考えて何か対策を打っていく、教育面でもなんかやっていかなければいけないなというふうには感じているところです。だから、こうデジタルを使えるようになるっていうのは、とても大事な反面、危ういところもあるかなというふうには感じています。色々ニーズ調査等されて、ニーズを踏まえて、色々講座を考えられるっていうのは非常に素晴らしいと感じました。やっぱり、これから学びをみんなで作り上げていくみたいなのが、とても求められていると思いますので、このような取組が定着してゆくと良いのではないかと感じました。以上です。

○ 会長

ありがとうございました。委員からはデジタル強者と言われる若者が被害に

遭っており、総合的な対策を講じることが大事だという御意見をいただきました。その他ございますでしょうか。

○ D委員

僕も自分自身、あんまり得意ではないんですけど、スマートフォンで、情報発信とか、農業をやってて、もうすぐ徳島県産の人氣がでるよと言う時に、いろんな人に向けてこうPRしたいなという思いもあったりして、僕自身も発信とかすごい興味があって、リカレント教育の情報分野について学びたい学ばせたいというのはすごい納得だなと思ったんですけど、やりたいなと思いつつもこう、それこそ意図してないとか、気づきもしないところで、その発信した内容で炎上するみたいなのって、最近ニュースでもよく聞いてて、それこそその若い人、情報強者とか、普段そういうSNSとかに通じている人がぼつとやっちゃうみたいなので、その今、丁度画面に映ってるところなんか、インターネットを安全に使うためのって、その消費者トラブルだけでは最近全然なくなってきたなあって感じます。その安全に使うための範囲ってすごく広い。炎上もそうですし、コロナが始まった頃とか、デマがいっぱい流れて、どれが本当かわからなかったみたいなの。そういうのも、このデジタルデバイドの解消に向けた取組の中の安全講座みたいなのところで、充実できたら、僕も、例えば安心して任せられる従業員さんが育ってくれたら、それはそれで僕が発信しなくてもいいとかになるので、それは非常に最近思うところであったので、関連してコメントをさせていただきました。

○ 会長

ありがとうございます。SNSにおけるバイトテロであるとか、そういうふうな安全なところで、そのテロとか炎上という、そういうふうなスキルもやっぱり必要じゃないかなという意見を頂戴しましたが、他にございませんでしょうか。他の件でも御意見いただきたいと思います。こちらが指名するのもちよっと失礼な話ですけれども、新しく委員に就任されました、E委員さんいかがでしょうか。

○ E委員

今、皆さんがおっしゃられたことは、我々にとって非常に重要な大切なことだったと言うふうに思っております。利便性が向上するためにですね、やはりこうセキュリティとか安全性とかこう危うくなっている現実の中で、道具の使い方を安全に安心してどう使うかということになるかなというふうに思います。情報もフェイクも流れるような状況になってまして、やっぱり正確に、本当に真に役立つ情報をどうやって流していくかが大きな課題であるし。情報の受け手もですね、それなりのリテラシーを持たないと、こういう社会乗り切れないんじゃないかなというふうに思っています。非常にこのまなび一あの学びの提供はすごく多岐にわたって、時代の潮流とかニーズをつかんでいらっしゃるといふふうに、今の御紹介を伺って思いました。非常に誰かおっしゃってましたけど、やっぱりこういう裏表ですので、情報のセキュリティという方にも、是非やられてると思うんですけども。情報弱者もそうですけども、今おっしゃったようなデジタル強者、デジタルに詳しい人達も被害に遭われている状況もありますので、安心して使える安全な方法やあるいはその被害の実態と

かですね。こういうことを想定して、こうゆう使い方がありますよというのは、学びの提供は非常によろしいですが、学びの進化といいますか、深まりも大事になってくるんだなというふうに感じました。

○ 会 長

ありがとうございました。メディアに携わる委員からの提案をいただきました。総合大学校本部の方でも、そういった提案を受けて進化した教育を提供いただけたらと思います。

○ F 委員

まずこの3年間ハイブリッドということで、我々教育の立場としても大変だということを痛感しております。多分、県立総合大学校の皆さんもすごく大変な思いをされて教育をしてこられたなと思っております。参考資料のちらっと見たんですけれども、本部主催講座の中です。例えば私もそうですし、徳島大学さん、鳴門教育大学さん、四国大学さん、そして徳島新聞社さんも講座を行われている。あとは、穴吹の方でも教育を行っているなかで、いわゆる高等教育では担えないというか、そういうことをあまりしていない、例えば中にある山登り講座とか、御興味がある方が大学とか高等教育、また中等教育もそうですが、学ばないんだけど学ぶ場所があるということが、すごく大きなことかなと思っております。そういう、いわゆる我々が大学とかある意味学問ではないかもしれないけれども、人生が豊かになるような講座をたくさん開いてくださっているということは面白いことだと思いますし、また、県の総合大学校だからこそ、こういう御講演とかが可能なんだと思っています。たくさんの方に来ていただけるような講座を開かれているんだなということを実感しております。また、先程から出てきているシニア向けのスマホ講座であったり、シニアだけじゃなくて若い方も大事だという話でしたので、そういうような講座を行っていただけることがすごく嬉しいことですし、またどんどん相乗りと言いますか、県内には教育機関もたくさんございますので、全部が全部、県立総合大学校様単独でされるのはすごく大変なことです。いろんな教育機関に相乗りしていただいて、我々もそうですし、ほかの大学さんもそうですし、専門学校さんもそうですけれども、相乗りしていただき、加重にならないようにされてもいいのかなと思いました。たくさんたくさん講座があるというふうにお見受けします。それよりも本当に人生が豊かになるような講座をたくさん開いてくださっているということは、徳島県民にとっても私もそうですけれども、素晴らしいことだと思います。そういう分野をどんどん進めていただいたり、徳島県の歴史の講座であったり、そういうところがすごくすばらしい取組だなと思いつつ、ちらっとみておりました。感想になってしまいますけれども、良い取組だと思っておりますので、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

○ 会 長

ありがとうございました。総合大学校本部をはじめ、その運営に携わっている皆さんには本当に嬉しい言葉だと思いますし、教育機関とも連携して新しいニーズに対応できたという話をいただきました。その他ございませんでしょうか。新しく委員になられた方を中心に失礼ですけど、御指名させていただきます。

思います。G委員さんお願いします。

○ G委員

私どももコロナでシルバー大学自体の授業がなくなり、その次の年は規模が縮小されました。ということは、卒業生をOB会の対象としておりますので、OB会の会員がものすごく減るといった事態になりました。それで非常に四苦八苦しているところもあるんですけども。しかし、今年はかなり卒業生が出まして、その方たちが積極的にOB会に参加していただけるので非常に喜んでおります。ただ、OB会と言ったらおわかりになると思うんですけども、平均年齢が70歳後半だと思えますよ。それで先程からお話いただいております、デジタルデバインドと言っても、例えば我々が連絡する時に、今やっと会員の7割ぐらいの方がスマホをお持ちになっていて、スマホで連絡が取れるようになったんですけど。しかし、例えば会が突然中止になるとか、変更になる時に連絡する方法として、スマホで一斉送信ができませんので、いちいち葉書とか手紙とか送らなければいけないという事態があります。先程おっしゃっていただいたようなスマホの講座を私たちの会でもさせていただけたらありがたいなと思いますし、それから私自身のことになりますけど、四国大学さんが行われました、MOS資格の取得支援プログラムを受講させていただきまして、無事に資格を取らせていただきました。だからそういうふうに積極的にいこうと思う人間はOB会の人間でもあちこちの講座に出かけております。私たちの方も年間通じてずっと毎月講座をやっておりますので、そういう意味でデジタルの講座もやっています。そういうことで、もう少しね、やっぱりシルバーの人たちがなかなかスマホとか使いこなせないって時代になっておりますので、そこらへんがもっとね、うまく使えるようになるような工夫とか教えていただけたらありがたいなと思います。よろしくお願いします。

○ 会長

ありがとうございます。G委員さんの話についても、いろんなところで対応していただけるんじゃないかと思えます。それでは次、H委員さんお願いします。

○ H委員

参考資料の17ページの連携講座の主な連携機関のところ、私ども入れていただいているんですが、この春できます神山まるごと高専さんなんかかなり全国的に見ても希有な教育をこれからされるということでございますので、ここなんかとも是非、まだ高専さんの方に余裕がないし、まだ先生方も揃ってないと思うんですが、今後5年経てばフルに揃うはずですので、神山さんとかとも連携をとってユニークな講座を御提供いただくと面白いのかなというふうに思っております。以上でございます。

○ 会長

ありがとうございます。事務局にそういった御提案があったということで、御対応いただきたいと思えます。ありがとうございます。それでは次、I委員さんお願いできますでしょうか。

○ I 委員

今回初めて参加させていただきました。今年度の秋ですかね、私も講師として登壇させていただいたりもしたんですけれども、これだけ多様な講座を年間通して幅広くされているということで、より多くの方に知っていただきたいなと改めて感じる部分と、あと先程みなさんの方からお話もありました、高齢の方に対してのデジタルデバイドの活用方法の周知であったりとか、より多くの方にそういったものが身近に感じていただけるようにみたいな声もあったと思うので、こういった講座の発信などにも、よりこうデジタル化っていうのを推進していくと、情報を必要としている方が、自然とその情報を取りに行くツールを活用していくっていうような流れもあるかと思うので、今そのこちらのまなびーあ徳島様がされている、講座の情報が、ホームページとかと紙媒体をベースにされている部分が多いかと思うんですけれども、例えばそういったところに身近にユーザーも増えて、SNSなどを加えながら、そのSNS情報を取りたいという、高齢の方も徐々に増えていくような、そういった端末をより日頃から使うような、そういった回数や頻度が増えていくような流れが自然と生まれる可能性もあるのかなというふうに、皆さんのお話を伺いながら感じるところがありました。今後どのような展開を広報的な部分でお考えになられているかというところは、この資料の中ではまだ受け取ることができてないんですけれども、もし今後可能であれば、そういったホームページ以外での情報発信というところで、各SNSなどを経由した発信っていうところも検討いただいたら、また、新たな入り口が設けられるというところで、今までそういったまなびーあ徳島さんの情報を手にしてなかった方も、手にするきっかけになったりですとか、高齢の方がそういったSNS経由でちょっと情報をとってみようかなって思ってもらえたりと、そういったデジタルツール、端末の利用頻度というのも増えていくような未来がある可能性があるんじゃないかなというふうに感じました。以上です

○ 会長

ありがとうございます。SNSを使った広報も、そういうことについても考えてはどうかということなので、御対応いただきたいと思います。それでは次、J委員さんお願いします。

○ J 委員

初めて本日参加させていただいております。広告代理店でコピーライターをしております。以前、通販の支援をしていて、先程から度々話にあがる消費者トラブル関係は、私は広告を作っている側の立場の人間です。で、虚偽のない広告、健康な広告をコピーライターのプライドとして貫いているんですけども、その中で、タチの悪い広告をよく見かけるたびに広告の読み方を伝える場があれば、協力するのにということをしごく思いながら、那賀町に住んでるんですけど、那賀町の郵便局で間違えて注文してしまった、大量の入浴剤を返品しようと頑張っているおばあちゃんとかをたまに助けて代わりに返品したりしながら、私も作っている立場ですので、何か力になれるのになと思いながらやります。ということをしごく誰かに言ったら何かにつながるかもしれないと思っていたので、言ってみました。ということと、あと2点ありまして、2点目がスマホとの関わり方であったり、SNSとの関わり方っていう自分自身が誰に

も教えてもらっていないような学びというもの。私は、33歳で子供が3歳と1歳の子がいるんですけども、その子どもたちに対してテレビの見方なら何となく分かるんですけど、SNSとどう付き合うとか、スマホとどう付き合うとか、距離感のおき方とか自分のコントロールとかゲーム機もそうかもしれませんけど、そういった今まで誰も先生がいなかったような分野について、もし講座があったりすると、とても需要があるのではないかなって。やっぱり徳島県ならではの特色ある取組になるのではないかな、他の県が手を出す前に先んじて手を出せるかもしれないと思いました。あと3点目がまなび一あというこの機関を私は、今回委員の話があった事で知ったんですけど、ほかの方は、どのようにこのまなび一あの情報を得ているのだろうか。町の広報とかでは見たことがなかったので、今後のまなび一あの広報の仕方というのに関わる中で知って行って、自分自身も発信できたらいいなと思います。

○ 会長

ありがとうございました。J委員の方から3つ御提案を頂きました。総合大学校本部の皆様には講師として広告の読み方を伝える場があればという話、子どもさんの学び、そして広報のあり方ということで3点の提案がありました。続きまして、K委員お願いします。

○ K委員

私は鳴門教育大学の大学院に在籍しています。私はさっき委員がおっしゃったような人生を豊かにする講座っていうキーワードがすごく個人的に気に入っていて。私も今までずっと学校で学んできたのは何か与えられたカリキュラムをこなしていくみたいなイメージが強くて、受験に向けたとか、その大学も自分で選んでいるものの、結局何年生だからこれをしてっていうのをずっと繰り返して行って卒業してみたいな。自分からあまり学びに向かっている気がしないまま今まできたような気がして、このまま大人になっていくのはちょっと悲しいなと思うので。私の友達が趣味で語学をすごく勉強していて、それを誰に言われたんでもないのにやっているとか、あと趣味で山登りをやっていて人に教えるぐらいまでその能力を習得している友達もいて、そういうふうにする自分で気に入ったものに向かって学んでいたり近づいていたりする。そういうはじめの一步みたいなのが、こういう講座だったり何かそのタイミングであったらいいなと思うので、私はすごい人生を豊かにするっていうキーワードも打ち出していった方がいいんじゃないかなというふうに思いました。私もこのお話をいただいた時に初めて聞いて色々調べて、こういうふうにあるんだなというのが分かったんですけど、私の周りの友達に聞いたら、あんまりその私の同級生が県外からいっぱい来ている人だったので知らなかったっていうのもあるんですけど、あんまり御存知ない方が多くて。なので、その大学院生、大学生、高校生にも周知していくと盛り上がっていくんじゃないかなというふうに思います。以上です。

○ 会長

ありがとうございました。総合大学校が色々と新しい取組をしてますけど、もしかしたら足元で周知をするっていうことが大切なかもしれないというお話をいただきました。また、学びの中で、人生を豊かにすることは総合大学校

できないなと思いました。それでは、L委員さんお願いします。

○ L委員

先程から色々と御紹介いただいたデジタルデバインド解消。あれは非常にいいところに着眼点があったと思っています。一番我々のところで今困ってるのは、その先程言われたように、教わずにもものを使ってるというところが多くてですね、その辺りの所を網羅するということを的確に掴んだっていうところが非常に素晴らしいと思って感心しました。スマホに関して、もう1つ気になってるっていうのは何かと言いますと、確かにスマホを使えるようになったと、それを使ってどうするんだっていうところも、加えていただくと非常にありがたい。1つのサンプルとしましては、ヘルスリテラシーと言うんですけれども、健康になるとか病気になった時の情報を、どういうふうにして取っていくのか、それをスマホでもってどういうふうを取っていくのかという最初に課題を出していただいて、そのためにスマホはこう使ってこう検索してこうすればいいですよっていうところが非常に。徳島県の流れからいいますと、健康県だとすれば非常に嬉しい話かなと思うので、是非その辺りも次回以降で結構です。頭の片隅に置いていただいて、その辺りが次の切り口かなというのが、この頃つくづく感じておりますので、どうか御検討のほどよろしくお願いします。以上です。

○ 会長

ありがとうございます。ヘルスリテラシーという観点で御提案いただきました。今後御対応をお願いしたいと思います。さて、ここまでは御指名させていただいた方、それから新しく委員になられた方を中心に御意見をいただきました。あと、まだ御発言いただけていない方、よろしくお願いします。

○ M委員

以前から比べるとすごくDX化が進んでいるなというふうにお見受けしました。本年度、弊社の方でもまなびーあ徳島の一環としまして、徳島フューチャーアカデミー女性DX人材育成事業を開催させていただきました。そちらの目的としましては子育て世代ですね。30代40代の方たちがもう一度この学び直しというところで、新しいデジタルを取り入れて、この先どのように使っていくのかというマインド部分について学びました。そこから20名の方が終了しまして、先々週3月4日にこれからDXを使って徳島をどのように良くしていくのかという発表をたくさんしてくださいました。その中でやはりデジタルについて、まだまだ知識が浅くて、それをこの徳島の課題解決に役立てたいんだけど、どういう方たちと繋がって行って、どういうスキルがあれば、それが実現できるのかっていうような課題に次はぶつかりました。その学びの中で、プログラミングとなれば、プログラミングをお仕事にする方のみではなく、プログラミングを学んで、よりその自分たちの仕事に生かせるようなプラスアルファの知識として学びを得るような機会を作っていただければありがたいなと思っております。この中で、アフターコロナを見据えての中、誰ひとり残さないデジタル社会の部分になるんですけども、シニア層に向けての講座って県下各地色々な所で行われているかと思います。その中間層である学校を出て子育てしている女性の学びの場って、すごく少なく、情報がさらに届いてない

っていうのもこの課題として、私はすごく思っています。先程から出てるその消費者トラブルの問題も、ゲームの課金の問題の相談がすごく最近多いようです。子どもたちにそういったリテラシーを伝えられない母親、それは私たちも学んでいないので伝え方がわからない、J委員さんからも発言がありましたけど、そういう部分を親子で学んでいく必要があると思います。コロナ前に西部のまなびーあ徳島の総合大学校で、親子で学ぶネットリテラシーというのをまむ・くりえいの方でさせていただきました。その時はなかなかその情報がつながっていかないという部分であったり、まだお母さんたちがスマホを活用して生活に馴染んでいないというところもあって、浸透が難しかったんですけども、今みんなが使っていて、子どもたちも普通にスマートフォンを持っているという中で、何が大事で、どういうことに気をつけていかなければいけないかっていうこと。そして先程も出ていたように、それをどのように活用していくのかっていう部分で、一緒にサポートしながら学べるような場所になればいいなと思いますので何かその辺も検討していただければありがたいと思います。よろしく申し上げます。

○ 会 長

ありがとうございます。委員からはまさに高齢者だけではなくて、子育てが終わった、また真っ最中の方々を中心にそういう場が設けられないか、あるいは仕事専門的じゃなくて、補助的に使うものに対してもそういうリテラシーも学べないかという、総合大学校のこれからのあり方についての提言をいただきました。それではまだ発言されていない方どうぞ。

○ N委員

今日色々を取組を聞かせていただいたんですけども、その中でリカレント教育っていうのは子供から高齢者まで幅広いところですが、最近この中の一部となるかと思えますけれども、リスクニングというのが、岸田首相などの口から何度も出てきていることで、企業の仕事してる方々の、リスクニングですね。このところで今日リカレント教育推進のためのニーズ調査という部分を聞かせていただきました。令和4年11月から174企業で非常に割とボリュームがある調査をしていただいたということなんですけれども、資料のスライド3枚ですけども、このニーズ調査というのはどのぐらいのボリュームのものであったのか。またこれを少しまとめる方向で作業を進めているのであれば、どのような形でこの時期ということがわからないんで教えていただけたらと思います。是非、こういう資料を参考にしながら、徳島大学の方でもリスクニングというものに関しては、とにかく進めていきたいというふうに考えておりますので、是非調査を活用させていただければと思っております。

○ 会 長

N委員からはリカレント教育やリスクニングについての情報交換でありますとか、データの提供についての御要望をいただきましたので、総合大学校とも後ほど御連絡を取っていただけたらと思いますので、よろしくお願いたします。他に発言されていない方どうぞ。では、失礼ですけど御指名させていただきます。○委員申し上げます。

○ ○委員

私は、和楽器の演奏だったり、指導をしております。こちらの資料を見せていただいて、コロナの中でも受講者の方が減ることなく、さらにこう提供の機会が増えているということを見まして、すごくありがたいことだなというふうに思いました。私どもの方では、自分たちがいる世界に比べてすごく進んでいるんだなということを感じるんですけども、やはりオンラインでの音楽の指導というのがなかなか難しく、お話だったりはどうできるんですけども、音を聞いてその音に対して暖かい音を出してみようとか、悲しい感じにしてみようだとか、そういうのはなかなか指導が難しく、いよいよじゃあ合奏してみようってなった時に、合奏とかはかなり難しく、そういう意味で音楽の指導、これからはいろんな意味でリカレント教育っていうことも込みで、コロナのことも込みで、こういった手段を増やしていく、提供していくっていう取組もやっぱり必要なんだなってことを改めて感じました。けれども、そういったデジタル化のことっていうのは、なかなか個人では難しいことなので、先進県である徳島県のこういったまなび一あのようなところだと、もしかしたら実現していただきたりするのかなと思いつつ、今日聞いておりました。以上です。

○ 会 長

ありがとうございます。デジタルネイティブという形で3歳2歳の子がスマホを使ってですね、いろんな例えば、お花を注文してしまったなんて話を聞きますけれども、そういった形でデジタルネイティブと後で学んだという人で今は差があるのかな。しかし、そこをうまく融合する、例えば音楽にしても対面とハイブリッドと新しいやり方の必要性を御提言いただきました。また、御参考にさせていただきたいと思っております。それでは、P委員さんお願いします。

○ P委員

平成28年にシルバー大学で歴史文化部に入って、卒業してからは、シルバーの大学院に行って、それからまたICTの大学に行っただけですけども、現在は南庄町の自治研修センターで、歴史講座を開いています。これは年2回、日本史ですね、主に中世史とか阿波ゆかりの三好氏と細川氏、それから蜂須賀氏とかの講座を開いています。この講座する時は、ものすごく緊張するんです。間違ったこと言ったら大変なことになりますので。それで一生懸命勉強することがものすごくいいことだと思います。いやなことでも忘れるし、テレビとかじっとぼーっとして過ごすよりは、すごくいいことだと思います。死ぬまで勉強はした方がいいと思います。ぼけるまでしようと思っておりますけど。そういうことです。以上です。

○ 会 長

まさに県立総合大学校本部が求める人材の中にいらっしゃる委員さんと思っております。ありがとうございます。それでは、Q委員お願いできますか。

○ Q委員

発言の機会をいただきありがとうございます。もう1回自己紹介の方からしたいんですが、くらしのサポーターということで、小松島市消費生活センターで消費者トラブルの相談を主に受けて解決並びに斡旋を行っているのが業務

なんですけれども。この会であまりにも皆さんが消費者トラブルのことについて、すごく考えてくださっているということで、私の発言がどきどきどきどきしてんですけれども。今朝もですね、小松島市の方で20人ぐらいの高齢者の方が集まってくださってるサロンで徳島新聞さんの記事を使わせていただきまして、こういった悪質な業者があるんだよということと、高齢者の場合、固定電話に知らないところからお電話がかかってきて、例えば某電話料金が安くなるんですよ、詳しい方いらっしゃいますかと言われた時に、高齢者の方は、あたしでわからん、家には一人しかおらんし、若いもんは仕事に出て行っとなよ、自分のことは何も情報を公開してないように思っているけど、最近もここにいらっしゃる方には耳に届いていると思うのですが、アポ電強盗とかいうのにはもうこれみよがしな情報発信をしておしまっているんだよということをお伝えさせていただいた次第です。活動としましては3月3日に勝浦の方でビッグひな祭りというイベントがありましたので、188という皆さん、ホットラインがあるのは御存知でしょうか。泣き寝入りいやの188消費者トラブルの御相談を携帯電話の方で188の局番なしに回していただきましたら、相談できる部署につながるという便利なホットラインがあるという事を御紹介させていただきました。消費者トラブルについては消費者大学校がありますので、そちらの方も踏まえて勿論DX、携帯電話であったりパソコンであったり、本当に媒体が多いもので、トラブルというのが増えていくんですけれども、私がトラブルに遭った方のホームページを覗いていた時に、広告代理店でどうしてこんな謳い文句を使うんだろう、薬機法とか知っているのかと思う時があるんですけれども、J委員さんの話を聞いて味方がいたんだということが分かりましたので、すごくありがたいなと思います。全員が全員ではないんですけれども、協力し合っただけでこういった悪いものは全部排除して行きたいなというのが本音でございます。それと、せっかくなんでこのまなび一あ徳島で私も何かを受けてみたいなと思ひまして、委員のお話があった時に検索させていただきました。地元が阿南市なので南部の講座を検索させていただきました。かなりホームページのほうが少ないので残念だったんですけれども、唯一見つかりました。私、仏像とか掘ってみたいんです。木とか掘ってみたいなのがあります。彫刻刀をもう一回使って学びたいなとか思いました。また、新しく学生証ができたということで、ますます学生感ができて、夏休みのラジオ体操の時に印鑑をもらった感じで楽しくわくわく参加できたら嬉しいなあという気分ができました。私は今50歳になっておまして、この消費生活相談員というのは65歳で定年を迎えるんですけれども、あと15年経ったら私もまなび一あ徳島でいろんな活動したいなと思うんですけれども、それにはやっぱり健康であるとか、体力であるとか、そういったものを蓄えなくては行けないなという観点からも、運動会のようなものをしていただけたらなとか、あと発表する場がほしいなということも考えたりして、例えば短歌とか、そういった学校で学んでいらっしゃる方もいらっしゃると思うのですが、そういった方に専門分野の方から、あなたのこういった言葉使いがいいよねとか、金賞、銀賞みたいなもので、発表していただいたりとか。運動会とかいうことで走ったりするのね、高齢になってきたら私も無理かもしれないんですけれども、体がこんなに柔らかい大賞とか、そういったきめ細やかな面白みのあるものを作っていただけたら私も楽しんで参加できるなと思ひました。勝手なことを言いますが、ありがとうございました。

○ 会 長

ありがとうございました。188皆さん覚えておいていただきたいと思いますし、また私が知る限り、総合大学校で運動会は聞いた事がないのでまた考えていただければと思います。それではR委員お願いいたします。

○ R委員

失礼いたします。今日の課題を的確につかんでこれだけの多くの講座や連携講座、また他機関との連携も進めておられるようで、何年か前よりはるかに充実してきたと思って非常に感心してお礼を申し上げます。それと全く関係ない個人的な感想で、DX化に関してはですね、今ここ数か月で対話式のAIとのいろんな問題とか、問題までいってないんですけど、クローズアップされてきていますけど、例えば、ChatGPTであるとか、モーションAIとか、あるいはWritesonicであるとか、そういうのを見てみますと、まだこれから社会が変わってくるのかなというふうな、ちょっと怖い面もあって、あるいはすごいなと思う面もあって、そのあたりはDXというふうな中で、どうなっているのかわかりませんので、このあたりについても、意識を置きながら、私も今後DX化については知識を深めていきたいなと思ったところです。これは感想です。

○ 会 長

ありがとうございました。それではS委員お願いできますでしょうか。

○ S委員

私は、普段子どもに関わる活動をしています。赤ちゃんや親子の触れ合いが学べる場だったり、絵本とかお話し会をしているんですが、今日皆さんの話を聞いて、私もすごく本当にネットに潜む危険性をすごく感じました。先程、御意見を言ってくださったんですが、私自身もスマホにきたり、パソコンにそういうメールがくるとすごいどきどきして、本当に比較的そういう気持ちになる時があるので、やっぱり子どもたちこれからスマホとずっとこう付き合っていく子たちに、そういう付き合い方の教育、距離感の教育、すごく必要だし、それはそういう子どもたちに関わる人とか親とかも知っておかなきゃいけないこと、本当にいっぱいあるんじゃないかと思って、私も是非そういう講座をしていただいたら、本当に自分も勉強したいなとすごく思いました。

あと3. 11の間、たくさんテレビとか色々なところで目にしたんですが、防災講座。瀬戸さんがされていますが、私は行けなかったんです。こういう防災講座があると極力講座を受けるようにしているんですが、やっぱりすぐ忘れるんですね。すごく大切なことなんだけど、トイレ問題とか何を聞いても大事なことをいつも伝えてくださるので、もう防災講座は常に何回でもしていただけたら、いろんな年代の方、あと、女性の方の目線もすごく必要だと思うので、是非これからも何回もしていただきたいと思います。それからあと私個人的なことなんです。今までにもいろんな講座があって、本当に多岐にわたっていつも参加したいなって思うものもたくさんあります。私は徳島県人じゃなくて車に乗らないんですね。県立教育センターでしたっけ、あそこ行くのに車がないとちょっと。バスもあるみたいなんですけど、なかなか行けないので、アフターコロナの時代になっても、是非オンラインでもたくさんしていただけたらなと思います。

○ 会 長

ありがとうございました。それではT委員お願いできますか。

○ T委員

2年前になりますか、2年前はずいぶん時間的に長くおしゃべりしましたので、今日は黙っていようと思ってきましたけれど、そうはいかなかったです。何かの会合に行きました時に、やはり御挨拶される方が県外からいらっしゃった方がこう言うておりましたっていう言葉を耳にしたときに、私は穴があったら入りたい、言いたくなかった、言わなかったらよかったなって思いました。インターネットについてですけど、こういう講座がありましたら、もう是非行きたい。あるんですが、意外と歴史文化とかそういう分野は得意分野になりますけれど、パソコン関係になりましたらね。ちょっと弱いので、何回も変な質問してしまうような感じがしまして、躊躇してしまうんですね。パソコンを使っていて踏み込んで、もう1回行きたいなと思うけど、怖くて行けないですね、皆さんどうでしょうか。私は怖くて行けなくて、押したら大変なことが起こるんじゃないかなと思ひまして、躊躇してしまうんです。このことについて自信を持ちたいです。だから、そういう講座があったら行きたいと思ひます。そしてもう1つですけど、とくしま学博士は皆さん何をする人、何なんだと思ひてると思ひますけれど、P委員がおっしゃったように、大学院を卒業しまして、とくしま学博士の論文を書きまして、それを通過してようやく知事さんからの認定書ををいただくわけです。じゃあ、それを頂いたら何をするかって言ひましたら、自分でパワポを使ったり、ペーパーだけだったり色々ですけど、講座を開くんですね。定期的にやるものと、季節ごとに単発でやる場合も色々ありますけれど、私の場合は漢詩が好きですので、月に1回だけ漢詩を読んで頭の体操をしよう。これは知事さんが何のためにシニアに力を入れているかという、病気をしてしまったらお金がかかりますよね、入院費が。でも、いつまでもいつまでも元気で長生きして欲しいわけです。そのために我々はある程度の予算をいただいて、いろんな会が作られていると思うんですね。受講される方もそう認識しております。これは徳島だけだと思ひます。何回も言ひますけれど。漢詩を読んで頭の体操をしようっていうのは、教材に漢詩を使うんですね。唐時代の要するに中国の唐時代の漢詩なんです。すごく素晴らしい作品が多いもんですから、それを元にして、皆さんに音読してもらうわけです。最初、私が全部言ひまして、そして意味も言ひまして、一通り終わりましたら1人ずつ順番で音読してもらうんです。この緊張感が、これがいいんですね。これをもう数年やっておりますけど、長いんですけど。私自身も呂律が回るようになりましたし、する前よりはね、声も出るようになりましたし、最初から来てる方はもちろん、その結果がありますね。そういうことをしております。とくしま学博士の名前を使うことによって、会場をセッティングして下さるんですね、県の方で。そしてあとは4月に入りましたからなんですけど、皆さん、白楽天の長恨歌って御存知ですか、知ってる方がいらっしゃったら手をあげてください。これは、中国の唐時代の第6代玄宗皇帝と楊貴妃の悲恋物語なんですけど、白楽天がね129句作ってるんです。これをみなさんに想像していただけるようなしゃべり方でパワポを使ってやろうと思ひています。それが4月です。第2木曜日がとくしま学博士の交流会というのが南庄町でありますので、これを使ってやってみたいと思ひます。そういうようなことをやっております。

だから元気で百歳まで生きたいと思います。

○ 会 長

ありがとうございました。最後になってしまいましたけれども、U委員さんお願いいたします。

○ U委員

委員をさせていただいているんですけど、こんなたくさん講座があるということを知らなくて、実は今日来てびっくりしてるんですけど。みなさんおっしゃっていたような周知不足という課題はやっぱりあるのかなと思っていて、私の周りでもスキルアップしたいという友人とか、ここにもあったMOSの資格を受けたいという方の話を聞くんですけど、それがこの徳島県立総合大学校というのには、結びついていない方ばかりなので、ちょっともったいないなと思います。私の親世代も美馬市なので、講座はちょっと少ないと思うんですけど、オンラインもあるので、いろいろ受けてもらいたいと思うんですけど、やっぱり知らないと言うのがあります。SNSっていうのも親世代は見るわけでもないんで、この講座一覧表というのになってくると思いますが、もう少し県民の皆さんに知っていただけたらなと思います。私も受けたことないので受けてみたいと思う講座があるので、来年は受けてみようかなと思います。以上です。

○ 会 長

ありがとうございました。これで全ての委員の方に御発言をいただきました。いろんなヒントがあったように思っております。総合大学校本部の方では、いただいた意見に向き合って、また改善していただきたいと思います。今回の会議録につきましては、事務局で取りまとめをさせていただいて確認された上で公表の手続きを取らせていただきたいと思います。冒頭で申しましたように名前を伏せてた上でということで、公開を考えております。よろしいでしょうか。

○ 各委員

(異議なし)

○ 会 長

ありがとうございました。それでは、本日の会議を終了したいと思います。皆さんから御発言いただきました。まだまだ御発言させていただきたいことがあるわけですが、時間となりましたので、御容赦いただきたいと思います。スムーズな進行に御協力いただきありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

○ 事務局

佐野会長ありがとうございました。先程リカレント教育の関係につきましては、詳細をまた会長さんの方からも言っていただきましたけれども、各高等教育機関の方で、プラットフォーム事業に参画していただいておりますので、そのあたり情報共有させていただきたいと思っています。

それでは、以上をもちまして令和4年度徳島県立総合大学校運営協議会を閉

会させていただきます。皆様、長時間にわたりまして、大変ありがとうございました。お疲れ様でした。